

事例 No.	106	人口規模	80万人以上	地域ブロック	九州・沖縄	事業タイプ	その他	事業主体	任意団体
事業名	わらべの日								
実施地方公共団体名	北九州市(福岡県)								
特徴・ポイント	従来の行政が発案して事業推進するのではなく、全国に先駆けて民間団体(子ども未来ネットワーク北九州)が、“子育て支援の日”(わらべの日)を発案し、民間主体で行政と協働して事業推進していくところに特徴がある。								
事業のねらいと内容	<p>【ねらい】 1.「家庭」、「企業」、「行政」などで構成される「地域社会」が協力して、子育てに取り組んでいく気運を盛り上げることを目指している。</p> <p>2.市内の民間店舗・施設の利用が促進されれば、様々な経済的な波及効果が発生するなど、市内の賑わいの創出が期待できる。</p> <p>【内容】 毎月第2日曜日を「わらべの日」とし、平成18年4月9日(日)に初回開催。中学生以下の子どもを連れた家族、団体に対して協力施設・店舗から料金の割引・プレゼントなどのサービスが受けられる。</p>								
導入・実施の背景・経緯(事業の必要性)	<p>1.子どもが健やかに育ち豊かな人間性をはぐくむためには、「家庭」だけでなく、地域社会において多くの人とふれあい、様々な活動を体験することが重要である。</p> <p>2.「家庭」と「地域社会」の連帯感が希薄化する中で、子育てを地域のみんで見守り・支え合うことの大切さが指摘されている。</p> <p>以上2点を実施の背景とする。</p>				導入・実施に際して苦労した点				
事業の効果	<p>平成18年4月の開始当初は協力施設・店舗数が139であったが、平成19年3月1日時点でその数は438にまで拡大している。</p> <p>地元商店街のなかには、自主的に子どものためのイベントを開催。新しい展開を見せた所もある。</p>				<p>実施にあたってのネックをどのように解決したか</p> <ul style="list-style-type: none"> 九州北部5県主催の「子育て応援の店」事業との関係 県と情報交換を行ないながら、協力して事業推進している。 				
事業のアピールをどのように行なったか	<p>市民へのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> PR用リーフレットを作成し保育所、幼稚園、小学校、中学校を通じ、子ども1人につき1枚配布。区役所、市民センターに設置。 ホームページを作成。協力店舗・施設の情報を掲載。 <p>企業等への働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> 市政だよりを通じて協力店舗・施設を募集。 福岡県理容生活衛生協同組合の会合に出席し協力を依頼した。 八幡西区にある各商店街連合会に協力店舗としての登録を依頼。 								
必要な協力先・実施主体とその確保策	<p>(必要な協力先)北九州商工会議所、北九州市医師会、福岡県理容生活衛生協同組合戸畑支部・小倉支部</p> <p>(確保策)北九州商工会議所との連携を通じ、業界団体に対する説明会を実施している。</p>								
概算事業費(千円/年度)平成18年度予算	0千円				問い合わせ先		所属部署:北九州市保健福祉局こども部こども家庭課 TEL:093-582-2410 FAX:093-582-5145		